

2021年5月20日

5月21日の原子力空母エイブラハム・リンカーンの横須賀基地寄港に抗議するコメント

原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会 呉 東 正 彦

非核市民宣言運動ヨコスカ、ヨコスカ平和船団 新 倉 裕 史

- 1、本日、外務省から横須賀市に、明日5月21日午前8時50分ころ、米海軍の原子力空母エイブラハム・リンカーンが、米海軍横須賀基地に寄港するとの通報があった。
- 2、米海軍横須賀基地を母港としない原子力空母が2年連続で寄港することは初めてのことであり、このような2年連続の米海軍横須賀基地を母港としない原子力空母の寄港は将来の原子力空母2隻体制化、ないし原子力空母の寄港の常態化に繋がりにくい。
現在も横須賀市民は年間に半年近く原子力空母の原子炉との同居を強いられており、母港としない原子力空母が度々寄港することは、いつ横須賀基地を大地震や津波が襲うか分からない昨今、それに遭遇して原子炉事故が発生する危険性を高めるものである。
また原子力空母リンカーンは、その直前に日本海で演習を繰り返しており、その直後の寄港と、寄港の常態化は、横須賀が有事の戦争に巻き込まれる危険性を高める。
従って私達は原子力空母リンカーンの寄港に反対し、強く抗議する。また米海軍には寄港中止を、日本政府、横須賀市長に対しては寄港中止させる意思表示を強く求める。
- 3、また米海軍は5千人近い乗組員を、横須賀基地外にも外出させる方針であるが、横須賀市内のコロナ感染者は上下を繰り返しており、昨年8月の原子力空母カールヴィンソンの寄港の際も乗組員は上陸したが基地外には出なかったことを考えると、一挙に大量の乗組員が上陸し、日本の検疫、PCR検査を受けずに基地外に出ることは、コロナ感染拡大のある大変危険なことであるので、乗組員が上陸せず、少なくとも基地外には出ないよう、米海軍に強く求めるものである。